

嗚沒斯の唐に投降したる時、舊唐書廻紇傳に據れば、別に

有特勒葉被沾兄李二部、南投吐蕃、有特勒可質力二部、東北奔大室韋、有特勒荷勿賧、東討契丹戰死

と見ゆ、此の如くにして、會昌元年の末に於ける嗚沒斯と赤心との争を基因として、赤心の死、那頡賧の分離及び敗滅となり、此の間に酋帥多く亡び、部族畜牧亦多く失はれ、回鶻の勢力は大に傾きしに、更に嗚沒斯等の唐に投降し、又吐蕃・室韋にも走るものあるに至りて、其の勢益振はず、遂に唐の爲に最後の打撃を加へらるゝに至れり。

前に引けるが如く兩唐書回鶻傳に、烏介可汗の那頡賧を得て之を殺せし時、可汗に屬する諸部猶十萬と稱すと記されたるが、今や嗚沒斯の唐に降り、唐の爲に邊を防ぐに至るや、新唐書回鶻傳に

可汗遣使者、藉兵欲還故庭、且假天德城、帝不許、可汗恚、進略大同川、轉戰攻雲州

と記し、舊唐書李德裕傳には

烏介勢孤、而不與之米、其衆饑乏、漸近振武、保大柵杷頭峰、突入朔州

と見え、新唐書同傳にも

於是回鶻勢窮、數丐羊馬、欲藉兵復故地、又願假天德城、以舍公主、帝不許、乃進逼振武、保大柵杷頭峰、以

略朔川、轉戰雲州

と記せり、通鑑は此等の事實に就きて、會昌二年五月の條に、此の月先に可汗の許に遣したる内使楊觀(二〇四)が還るや、

可汗は上表して「求糧食牛羊、且請執送嗚沒斯」と記し、其の七月(二〇五)「烏介可汗遣其相上表、借兵助復國、又借天德

城、詔不許」と記し、而して八月「可汗帥衆過杷頭峰、南突入大同川、驅掠河東雜虜牛馬數萬、轉鬪至雲州城門」